

令和元年度 大阪府立摂津支援学校 第2回 学校運営協議会 実施報告書

1. 日 時 令和元年 11 月 1 日(金) 10:00～12:00

2. 場 所 本校 会議室〔中高等部棟2階〕

3. 出席者 〈学校協議会委員〉

西野 陽一（大阪工業大学） 大矢 優子（摂津市教育委員会）

松元 広美（ダイキンサンライズ摂津）

熊谷 達也（茨木・摂津障害者就業・生活支援センター）

中井 啓夫（高槻市柱本自治会） 横路 優香（本校 PTA 役員）

〈摂津支援学校〉

校長（藤井） 教頭（南・野崎） 事務長（洲本） 首席（中島・小野）

首席兼教務部長（坂部） 首席兼高等部主事（三牧） 部主事（落合・平水）

防災委員会・指導部部長（池田） 研究研修部部長（麻生）

〈傍聴者〉 3名（本校保護者）

4. 年間テーマ及び協議事項 「明日も行きたくなる学校」をめざして

- 主な内容 ①引きつぎ訓練の報告 ②今年度の教員研修について
③今年度の承認研修について ④学校教育自己診断について
⑤今年度の取組みの進捗状況について

5. 説明・質問・協議内容等

（1）はじめに

- ・配付資料確認
- ・校長あいさつ

2学期も半分過ぎ、折り返し地点に来た。中3（名古屋蒲郡方面）小6（白浜）修学旅行を実施した。台風が接近していて雨の影響が少しあった。天候が変動しており、遅い時期まで台風が発生しており行事のあり方も考えていかなければならない。

今年度の取組みについて報告し、ご意見をいただき次年度の経営計画に盛り込んでいきたい。

（2）学校より報告および協議 〔進行：会長〕

①引きつぎ訓練の報告

〔教員〕昨年度の大阪北部を震源とする地震と同じ、震度6弱を想定して訓練。

保護者の車乗り入れの引きつぎ訓練は今年度がはじめての実施。昨年度の地震発生時、車で来校された方が多かったため、教員が交通整理を行う必要があると考え設定している。デイスサービスの車両のうち、1台はこどもの乗車はなく、訓練参加のために来校。

今年度は通学バスのバス停引きつぎはなし。資料の中の昨年度の保護者迎えが多いのは土曜参観時に実施したため。

※以下パワーポイントで写真を提示しながら説明

引きつぎの受付は部主事と首席の 2 名体制で実施。保護者が受付に多く、混乱した場面もあった。引きつぎカードに登録した人に引きつぐ形で実施している。交通整理のために教員が 20 名必要となったため、指導部・総務部・保健部で担当。車で来校の方には左折での入退場にご協力いただいた。バスターミナルにはパーキングエリアのように車を斜めに止めるように計画し、より多くの車が駐車できるように工夫した。実際の災害時は今回の訓練のように同じ時間に車が殺到することはないが、訓練時近隣への迷惑を避けるため校門入口が混雑している場合は近隣を走行していただくことをお願いしていたが快く対応していただけた。

・保護者の意見

「880 万人訓練と一緒にやりやすい。」「暑さ対策を要する。」「担任が受付をしたほうがスムーズ。」「実際に災害が起こったときは迎えにいけない、デイは休みになってしまう。」などのご意見をいただいた。「実際の災害のとき迎えにできなかった場合どうなるのか。」→（回答）保護者に引きつぐまでは学校で保護する。

・教員の意見

「シミュレーションできてよかった。」「暑さ対策が必要。」「交通整理や渋滞が課題。」「欠席者がいたことについて。（保護者が迎えにいけないため欠席した子どもがいた）」

災害はいつ起こるかわからない。児童生徒の負担軽減のため待機方法の検討を行う。あらゆる災害を想定した訓練及び体制作りを行っていききたい。学校と保護者等との連携を行い学校は防災への意識を高め同時に児童生徒自身がいのちを守る力を身につける取り組みを行っていききたい。

[委員] このようにシミュレーションするのは大変だが有意義。車の乗り入れについてはよい判断をされたと感じる。車が多く大変であったと思うが訓練したからこそ、そのこともわかったのではないかと。ご意見をフィードバックされ、より良いものにされては。

[委員] このような訓練を続けておられて素晴らしい。今は学校引きつぎをされているが地元として意見を言うところの地域の地震対策はできているが水害が怖い。3つの川に囲まれている。淀川、芥川、安威川。特に芥川、安威川が水害に弱い。ハザードマップを見ていただき、水害対策もしていただき総合的に防災について考えていただきたい。

[教頭] 津波の対応訓練はしている。2階まで浸水した場合、3階以上に避難し1泊することを想定している。最長3日間は避難できるよう備蓄品も準備している。

[委員] 昨年度の地震発生は8時くらいだった。登校中など混乱したことと思う。昨年度はどのように対応されたのか。

[教員] 昨年度の地震の際は、既に登校していた自主通学の生徒はグラウンドへ避難した。バスに乗っていた児童生徒はそのまま登校。バス停に保護者といた児童生徒は保護者と安全を確保していただいた。自主通学途中で連絡の取れない生徒は教員が駅まで確認に行った。電話が使えず、

教員個人の携帯から連絡を取るなどして対応した。1名実習に行っていたが本人と保護者と連絡をとることができ保護者が本人を迎えに行った。

[教頭] モノレールが止まったため、車両の中にいた生徒と連絡を取れなかった。昨年度は地震発生時のマニュアルがなかったため、引きつぎも午後4時頃までかかった。

[委員] 季節を変えて実施してほしい。雨の時も中止せずにぜひ実施を。子どもたちが不安になるとのことだが事前に説明はしているのか。

[教員] 説明はしているが、他の児童生徒が帰っていくのを見ると不安になる子もいた。ケアをしていく必要がある。

②今年度の教員研修について

[教員] 別表1、2の通り、研修を行っている。

主な研修について、自立活動研修は支援教育の経験の浅い先生方の知識を補うために行っている。人権研修では外部講師による研修、いじめ防止マニュアルの確認、今後はまとめの研修を予定している。夏季休業中の教員実技研修の一環で外部講師による姿勢作りについての研修を行った。搜索研修は児童生徒の行方不明時の対応の研修。初任者研修では10年経験者その他の教員から助言する研修を行っている。公開授業週間として9月は内部向け、2月は内部に加えて外部教育関係、福祉関係の方も対象に行っている。保健部の研修としてアレルギーの研修ではエピペンを用いて実践しながら実施した。

[委員] たくさん研修しておられ、大変だけれど頑張してほしい。1回ではわかりにくいものは何回も実施するのがよい。人権研修ではいじめについて行っておられるが、ぜひ体罰の件も実施していただきたい。子どもたちに指導する際にどのように伝えるかは大切。生徒がわかるように、その人に合わせて対応していくことも人権を守ることとして大事。

[委員] 発達検査の研修はいかせているか。

[教員] 1回目は概論についてだが、各学部ごとに実際の検査の実施について研修を行っている。

[委員] 就職後セクハラ行為を理由に解雇される者がいる。本人たちに社会生活を行うに当たってどう伝えるか、学校の性教育はどのように実施されているか。

[教員] プール学習前にプライベートゾーンについて指導、性的興味の強い生徒には個別で指導している。教員は個人的に性教育の研修会などに参加している。

[委員] 学校で同性介助や異性との接し方について気をつけているか。

[教員] 完全に同性介助は難しい面もあるが異性への接し方は注意している。

[委員] 研修の参加者について内部よりも外部が多いのが気になる。

[教員] 昨年度まで夏期研修は新任者対象だったため。これからは教員の参加を増やしていきたい。

③今年度の承認研修について

[教頭] 承認研修とは学外で研修を受ける場合、事前に「願い」を提出し校長が精査した上で承認、終了後は報告を提出する流れとなっている。

小(18名) 実践交流会、ことば・かず、動作法、三島ブロック研修会等

中(1名) 人権、心理学について

高(3名) 日本語ワープロ検定について、授業作り、学校づくり、さをり織り

[委員] 講義形式の研修より実践交流会のようなものはとてもよい。それぞれの学校の文化で教育活

動等をすすめてしまうので、他校との交流は有意義。

[委員] 承認研修は教育公務員特例法 22 条で定められている権利だが、なんでも研修として実施されていた経緯があり、現在は改善され資料の提出及び内容を精査した研修に変わっている。

[校長] 報告はしっかり提出されている。

④学校教育自己診断について（資料に沿って説明）

[教員]（資料⑤－１）大阪府の通知のまま。この通知に基づいて本校の学校教育自己診断を作成している。

昨年度より第 2 回学校運営協議会の日程が早まったので、実施日程が早まっている。

未提出の家庭には再配付し、回収率を上げる。子どもたちは授業で実施する。昨年度、教員の提出チェックは全員分ついていたが提出資料が 2 部足りなかった。部主事と連携して確実に回収していきたい。

（資料⑤－２）保護者用、16 は今年度より中学部も部活動を始めたので「中学部」を追加している。

（資料⑤－３）主に小学部と中・高の適した子ども対象。

（資料⑤－４）生徒用、2「障がいのことを理解してくれる」を削除・変更 9「なんでも」を削除・変更 23「中学部」を追加

（資料⑤－５）教員用、21「中学部」を追加 23「理解している」に留め変更 48、49 具体性を持たせた。

質問内容については校長に相談し、経年変化を見たほうが良いとのことでマイナーチェンジはしたが大きな変更はない。

[委員] 昨年度第 3 回のときに「PTAに協力している」が少なかったので学校祭の時の景品の寄付や PTA の学級委員などへの声かけなども協力に当たるのではと伝えたが。

[教員] 口頭で補う。

[委員] つくし園から進学した子どもたちがこの質問に答えられるか、どうやって回答を引き出しているのか。

[教員] イエス、ノーの返答が可能な子どもに配付。昨年度は小学部は 10 人程度、中学部は 6 割程度の実施。

[委員] 保護者としてやりにくさ（回答しにくさ）はないか。

[委員] 判断つきにくいことはある。自分から言えない子の場合、親がこうじゃないかと感じることを記入する。

[委員] 教員用、43 には主語がない。「あなたは」では学校教育自己診断にならない。12「あなたは」だと意味が違って来る。去年までの校長は「あなたは」で考えてほしいとのことで、学校運営協議会で意見が出て変わらなかった。今年はどうか。

[校長] 学校経営に各教員が参加している、という意味あいだろう。今年は学校全体として客観視して判断するように口頭で伝える。

[委員] あくまで学校教育自己診断であることに留意。

[委員] 去年、保護者からわかりやすい言葉で書いてほしいと意見が出た。例があるとわかりやすい。

[委員] 担任に質問するのはよいか。

[委員] 聞くぐらいなら書くのをやめておこうとなってしまう。

[委員] 20、23は難しく表現がかたい。少し精査しては。

[教員] 校長と相談して文言を平易にするかなど検討する。

[委員] 結果は第3回で報告することとなる。

⑤今年度の取組みの進捗状況について

[校長] 第1回では4月～7月までの報告をした。7月後半から10月までの進捗状況を報告する。中期目標については4つの柱を立てている。これは府のひな形に沿ったもの。

1、安心・安全の教育をすすめる学校

大阪府内で体罰の問題事象が起こり、臨時校長会が開かれ報道もされた。今回の事象は子どもを見下しているとの意見が出ていた。また本校教員にもそのような体罰がないようにと伝えている。生徒の指導中に生徒にたたかれるなどすることで悩んでいる教員もいる。教員の不安感に対するケアも必要。教員はアンガーコントロールをしながら、どのように児童生徒対応したらいいのかなどの研修もしている。今後は大阪府教育庁の実施する研修の伝達講習を行う予定。

いじめについてはこどもたちの不安感を聞き取るようにしている。2学期には1件いじめ事象（グループラインのトラブル）があった。家庭訪問を含めた指導をし、心理カウンセリングを継続していく。

給食の安全については保護者の申し入れに基づき給食の献立中のアレルギー物質を確認している。中1に乳アレルギーの生徒がおり細心の注意をはらっている。他校では宿泊中にミスがあり、成分表も含めた確認が必要と考える。本校では校医を講師としてアレルギーの研修を行っている。

防災については880万人訓練、引きつぎ訓練をより良いものにしていきたい。9月の学校とPTAとの懇談会の中で、保護者にわかりやすいマニュアル作りができないかのご意見いただいた。PTAと相談しながらどんなマニュアルがいいか検討していきたい。また、学校では3日間子どもを預かる準備はできているがその間に引きつぎに来てほしい。

熱中症指標計が体育館と運動場に設置された。熱中症の暑さ指数31度を超えると運動、水泳中止となる。

遊具において、他府県で事故があった。点検整備を実施していく。

6月に近隣で工場爆発事故があった。本校破損箇所については業者の保険で対応する。

2、子どもにとって「いい授業」を追求する学校

本校には6人初任者がいる。学内でOJTを進め、校外の研修の際は報告書を求めている。リーダー、アドバンス研修に参加している教員もいる。また、育成支援事業として指導主事の指導のもと、各学部から3,4名参加する形で校内育成にも力を入れている。育成支援事業は7月8月に行い、12月にも行う予定。自分たちでまとめたことを校長に具申する流れになっており、次年度の経営計画に盛り込む予定。

研修の参加人数について、全員参加なのに希望者としてしまったものがあった。また、参加者数の把握ができていなかった。今後は研修の感想を回収するように研究研修部に指示した。

3、地域で学び、地域とともに育つ学校

高等部音楽部が出演予定の摂津市主催のろうそくファンタジーが中止になってしまった。小学部と中学部は地域の学校と交流行事を行っている。居住地校交流は増えている。将来子どもたちは地域で暮らしていくことから継続していく。

ロータリークラブの周年行事があるため寄付の申し出があった。以前、多目的広場の花壇を作ってもらったが手入れができていない。子どもたちが使用できる内容で検討する。

4、組織力の向上

部主事、首席、教頭と連携し、子どもたちの様子を把握し、学年主任とも連携している。

8時15分から本日の流れの確認、児童生徒の怪我や病気の情報共有を行っている。8時半からは職員朝礼にて各担当より本日の連絡を行っている。情報はなるべく早く校長に伝わることを目指しており、徐々にその流れができつつある。

[委員] 人権のところで、生徒の暴力に悩んでいるという話はとても残念に思う。暴力でしか表現できない子どももいる。悪循環に陥らないように、なぜ暴力に至ったかを考えてほしい。

[校長] こうすれば暴力に至らなかったかもしれないということを振り返ることは大切。

[委員] 神戸の教員同士のいじめ事件について校長としてどうお考えか。

[校長] あってはならないこと。本校でもいじりやからかいのようなことはある。いじりがエスカレートしていく可能性はある。子どもたちにもそういうことはあり、教員の様子・関わり方をみているので注意が必要。報道であったように府内でも教員間のトラブルはあった。本校教員にはラグビーに例えて、仲間であるということ、それぞれのいいところをつなげ合わせていこうと話をしている。

[委員] 学校という閉鎖的な中で対人関係を築くのは難しい。自身が教育実習に行っていたとき、教員より「先生は最初から先生、あまり怒られることもなく勘違いしやすいので自分で自分を戒めなければいけない」といわれたことが心に残っている。このような環境の中で教員間のいじめは起こったのではないかなと思う。多かれ少なかれどこでも起こっているのではないかと世間は見ている。校長はしっかり見ていってほしい。

[校長] 校内を回っているときに気になる場面をみかけたら注意するようにしている。これからも継続する。

[委員] グループラインにおけるいじめがあったとのことだが自身の職場でもあった。難しい問題だと思う。再発防止の対策はどのようにされているか。個別の事例として対応されるのか他の生徒にもわかるように指導されるのか。

[校長] 今は個別対応をしている。全体には一般論としてメールの使い方などは授業内で伝えていこうとしている

[委員] 去年、居住地校交流を積極的に進めたいとのことだったが、努めているようには見られない。今年も去年と変わらず、「どうですか」の一言だった。

[教頭] どうぞ行ってくださいとはすすめていない。地域にはもう行きたくないという子どももいるため、あくまで希望制としている。交流を促進しないといけないけれど難しい面もある。

[委員] いずれ地域に戻るので伝え方を工夫してもっとハードルを下げてはどうか。1回目だけ教員が付き添い、あとは保護者だけでというのも、不安がある。

[校長] 校長同士で連絡を取り連携はしている。居住地校交流は下準備のいることではあるが、推進していき増やしていきたいと考えている。保護者に付き添ってもらわないといけない。教員が毎回付き添うと学校の教員体制に支障が出る。

[教頭] 本校の児童生徒が地域の学校の行事を見に行くだけという交流ではいけないと考えている。

(3) まとめ

・会長より

積極的なご意見ありがとうございました。学校では参考にしてもらい、よりよい教育活動を行ってほしい。

・校長より

後 5 ヶ月で学校経営計画が達成できるよう努める。また次年度の学校経営計画に活かしていきたい。

(4) 事務局より諸連絡

・次回の日程については2月14日（金）で提案したい。

不都合がなければ、年内に案内を送付する。

【配付資料一覧】

- ① 次第 ② 引きつぎ訓練の報告 ③今年度の教員研修
- ④ 今年度の承認研修 ⑤ 学校教育自己診断 ⑥ 学校経営計画
- ⑦ 今年度の取組みに関して